

Mr. Bassman (ベースマン列伝) vol.47

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変……。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Victor Gaskin 【ヴィクター・ガスキン】



Photo by Tom Marcello (Jazzmobile Concert in Rochester, N.Y. 1977)

Profile

1934年11月23日、米国ニューヨーク州ブロンクス生まれ。本名はRoderick Victor Gaskin。7才の頃に音楽家だった父親からギターを学ぶ。音楽学校でピアノを学び、除隊後にロックバンドでベースを担当。62年ロサンゼルスに移り、ポール・ホーンやレッド・ミッチェル、シェリー・マン等と共演を重ね、ウエスト・コースト・ジャズシーンで活躍。同年ザ・ジャズ・クルセイダーズに参加し、『アット・ザ・ライトハウス』『ザ・シング』のレコーディングに参加。60年代中期にレス・マックヤンのグループに参加し、多くの作品のレコーディングにも参加。66年から70年までキャノンボール・アダレイのグループに加入。66年8月にキャノンボール・アダレイ・クインテットのメンバーとして来日。同年10月にキャノンボール・アダレイの名盤『マーシー・マーシー・マーシー』のレコーディングに参加。その後フリーとなりニューヨークを拠点に活動。70年にデューク・エリントンのバンドに参加。70年代前半にはジョン・メイオールと共演し、2作品のレコーディングに参加。70年代後半から93年まで、ビリー・テイラー・トリオで活躍する他、ジョニー・ハートマンやハンク・ジョーンズ等とも共演。2012年7月14日、米国領ヴァージン諸島フレデリックステッドのエステート・ウィムにて死去。享年77歳。

派手さはないが、堅実なプレイで魅了したいぶし銀のベースマン

1962年にニューヨーク州からロサンゼルスに移り、ウエスト・コースト・ジャズシーンで活躍したヴィクター。本誌由来のベースマン、リロイ・ウィネガーも同時代にウエスト・コーストで活躍し、時期は異なるが共にザ・ジャズ・クルセイダーズにベースリストとした参加した縁がある。ヴィクターは『アット・ザ・ライトハウス』(1962)と『ザ・シング』(1965)のレコーディングに参加し、リロイは『ライヴ・アット・ザ・ライトハウス'66』(1966)と『トーク・ザット・トーク』(1966)のレコーディングに参加した。ヴィクターと日本との縁は1966年8月キャノンボール・アダレイ・クインテットでの来日。当時21歳だったヴィクターは期待の若手ベースマンとして、キャノンボール、ナット・アダレイ、ジョー・ザヴィヌル、ロイ・マッカーディと来日し、8月26日のサンケイ・ホール公演は『キャノンボール・イン・ジャパン』に収録されている。

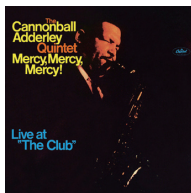
VG's Great Albums

残念ながら、自身のリーダー・アルバムは残されていなく、参加アルバムもいくつかはないが、『マーシー・マーシー・マーシー』をはじめ、その名演を堪能して欲しい。



アット・ザ・ライトハウス '62 ザ・ジャズ・クルセイダーズ (Fresh Sound : FSRCD-807) [Import CD]

1962年8月にLAのハマサビエにてあったクラブ「ライトハウス」で行われたヴィクター在籍時のザ・ジャズ・クルセイダーズのライヴ音源を収録。



マーシー・マーシー・マーシー キャノンボール・アダレイ (ユニバーサルミュージック : UCCU-5785)

ジョー・ザヴィヌルを擁したキャノンボール・アダレイ最強クインテットによる大ヒット・ファンキー・アルバム。タイトル曲もヒットを記録。1966年録音。



キャノンボール・イン・ジャパン キャノンボール・アダレイ (ユニバーサルミュージック : TOCJ-9484)

1966年8月26日サンケイ・ホールで行われたキャノンボール・アダレイ・クインテットの日本公演を収録。若きヴィクターのベースも聴き所。



ザ・ジャズモービル・オールスターズ ビリー・テイラー (Taylor-Made Recordings : T1003) [Import CD]

ビリー・テイラーを中心にヴィクター、フランク・ウェスやジミー・オーウェンスが参加したザ・ジャズモービル・オールスターズ作品。1989年録音。